

ごあいさつ

滋賀県家畜保健衛生所
所長 青木 義和

本県は、琵琶湖の恵みを受けた豊かな自然環境、古い歴史と交通の要衝とした地の利を活かし発展してきました。畜産業においても、歴史と伝統を誇る「近江牛」は、日本三大和牛のひとつに上げられるなど、全国的に高い知名度と評価を受けているところです。

また、牛乳、肉、卵、蜂蜜などの畜産物は、私たちの食生活を豊かにするとともに、健康で充実した生活の基礎として、無くてはならぬものとなっています。健康で安心感のある暮らしのためには、食の安全・安心の確保とともに、時代に即した生産基盤の強化に向けた継続的な取り組みが重要となっております。

現在、日本国内はもとより世界中で猛威をふるう新型コロナウイルス感染症は、人の生命と健康にとって大いなる脅威であるとともに、日常の国民生活に及ぼす影響も甚大であり、一刻も早い終息を願うばかりです。国や全国の地方自治体において、まん延防止に向けた対策が進められているところですが、これに伴う流通や消費の停滞等により、畜産経営においても、先が見通せない厳しい状況となっています。

あわせて、CSF(豚熱)、ASF(アフリカ豚熱)、口

蹄疫、高病原性鳥インフルエンザ等の家畜伝染病対策など、喫緊の課題も顕在化しているところです。このような中、当所におきましては、生産者をはじめ関係者の皆さまとともに、畜産農場における家畜伝染病の発生予防とまん延防止のため、飼養衛生管理基準の遵守を徹底し、バイオセキュリティの強化を図ってまいりたいと考えております。あわせて、継続的な家畜衛生対策による生産性向上、キャトル・ステーションの効果的活用による生産基盤の強化など、多様化する消費者ニーズに応える畜産物づくりを支援してまいります。

最後に個人的なことで恐縮ですが、私が子どもの頃、よく耳にした「滋賀県民の歌」を今でも思い出します。今年のNHK連続テレビ小説「エール」の主人公モデル、古関裕而さん作曲の「美しい滋賀、明るい滋賀、讃えん我らの伸びゆく滋賀を」の希望溢れる軽やかなリズムのもと、所員一丸となって、先人が築いてこられた伝統ある滋賀の畜産業を守り、持続的な発展に寄与できればと考えております。どうぞ引き続きよろしく願いいたします。